

お世話になります工房西ふじです 2011夏号

—毎度お世話になります 工房西ふじです。—

今年も暑い夏がやってきました。

でも、何がいつもの夏と比べると……。
そう、震災や原発の影響での計画停電や節電、サマータイム導入など。
やはりいつもとは違う感じですよね。

夏ダーッ!! 海ダーッ!!って素直にワクワクできない人も多いのでは。
今年の前半を振り返れば、3月11日の東日本大震災、そして15日の富士宮の
震度6強の震災(あれはすみません!)、この2つは自分にとって一生忘れる事の
できない体験でした。ゴールデンウイークには被災地にボランティア活動に行っ
きました。(今回、特集を組んでみました。)

今年の前半は震災もあり辛かったです。

でも、暗いニュースばかりではありません。新鮮なところでは なでしこジャパン
Wカップで世界一!! すみません、女子サッカー。

佐々木監督は決勝戦前夜、選手達に東北の被災地の映像を見せたそうです。
今、ここでサッカーができる幸運を実感させて、良い意味でモチベーションを上げさせたとのこと。
被災地や原発周辺でも一歩一歩復興に向けて前進しているはずです。
まあ、確かに暑いですが、被災地で苦しんでいる人に比べれば虫に食われた
ようなもの。すみません。

この節電も人間本来の四季を楽しむ生活を見直す良いきっかけにもなるのでは。
そう、夏は暑いに決まっています。今年は思い切って暑い夏を楽しめましょう。
そんなことで、今年も夏号お届けです。

ご主人のこだわり・奥様の夢・希望がふんだんに、佐野カセ邸完成!!

昨年末より工事にとりかかった宝町の佐野邸がめでたく完成しました。
今まで暮らしていた家は古い木造住宅で、昔から増築を繰り返しており、けして
耐震的に安心な家とは言えませんでした。

ご主人の佐野さんは前々から地震に対する不安な気持ちをお聞きし度々相
談をお受けしてきたのですが、昨年に一大決心してついに建替えることにいたしました。
幾度となく打合せを重ねた結果、理想のプランニングにこだり着き、11月の建物
解体を経て、年末より基礎工事が着手され、2月の建前から約4ヶ月あまりで完成
しました。



佐野邸はご主人のこだわり、そして奥様の夢と希望がふんだんに取り入れられ、お二人とも
出来栄えには大感激に大満足!引渡しから2ヶ月程経った今でもとっても当社を褒めてくださり
背中に羽が生えて飛んで行ってしまいそうです(笑)こちらの現場はまさに当社の特徴が最大限
に發揮できる理想的な現場でした。いろんな問題点や難しい宿題なども、当社の小長谷が一生
懸命に悩み考え、そして理想の答えを出していく。そんな素晴らしい現場の環境があつたのです。
「図面と違うから」「見積りと違うから」と言って簡単にあしらうことなく、お客様主導の立場に
立ち、お客様の満足を第一に考え、そして現場もスムーズに進行させる事を忘れずに。小長谷は
日々奮闘していました。お客様とコミュニケーションを取りながら、上手下手話し合いをまとめ、最後には
最高の仕上がりを実現しました。小長谷はそんな素晴らしい現場監督だと改めて思いました。(まゆつば
的な話ですみません)あ、当社の自慢ばかりしていたらどんだけ家なのか説明するのを忘れて
ました……。外観は東西に広がる大きな屋根が特徴で、北欧風Cafeをイメージしました。(ご主人
の希望) 内部には無垢の床板をふんだんに使い、珪藻土の塗り壁をより引き立たせています。
大空間のLDKには子供達が大きくなるまで使えるであろう杉の一一枚板の勉強(遊び場)!これも
配置し、奥様が常に目配りで子供たちの成長を見守ることができます。そしてキッチン奥の部屋は、ご主人の書斎兼自転車の
トレーニングRoom。こちらはご主人の夢のお部屋で、こだわれば俺は何も知らないって言っていた(笑)
2階には寝室と子供部屋を配置。子供部屋には遊び心をこめて3畳のロフトがあり、使い方は
あなた次第。…あなたってもしかしてあなた?! A君。お手柔らかに頼むよ(盆地)。
只今外構工事の真っ最中です。全てが出来上がったら美味しいビールをご馳走してくれる約束になっ
ています。その時がくるのが今からとっても楽しみです。

でも、いつも言っている事なのですが、ハウスメーカー・住宅会社が星の数ほどある中で、こんな小さな
当社に工事を任せています(笑)、佐野木様ご夫妻、本当にありがとうございます。
これからも末永いお付き合いをどうぞ宜しくお願ひいたします。

staff奮闘記

今年の夏は節電!!って事で事務所のエアコンは使っていません。窓を開け扇風機を回し、蚊の侵入
を防ぐため蚊取り線香を焚き团扇とハンカチを片手に仕事しております。そしてそして…いまひとつ、
コンが苦手なスタッフ達。なかで私が更新されず、ブログを更新してくれている方々(いるかな?!)
に樂しいでいたいのいいので小さな事でも頑張って更新したいと思います!!!



特集 被災地でのボランティア体験談

4月27日から5月4日まで岩手県の山田町にボランティア活動に行ってきました。行きは大型バスで、たく知らぬ人達と15時間の長旅。正直、行きのバスが一番きつかったです。

現地には28日の朝6時に到着しました。山田町にあるB&G 海洋センター(芝川にも同じ施設があります)が特設のボランティアセンターになっていました。その当時はまだボランティアの人数も需要も少なく、宿泊場にはほぼ(ほと)と他のボランティアの人達がいる程度でした。

山田町は岩手県の中央よりやや上にあり、ホタテやカキの養殖が盛んな漁師町で、歴代総理大臣の鈴木善幸さんの出身地として有名な町です。海の利権などからむなどとして、外部のものを受け入れない町民性に加えて地域性が強く、おらが町はおらが守ると言った意識が非常に強い町で、県に対する支援要請がたいへん遅れたそうで、現地入りした当時はまだ手付かずの場所が多くありました。

山田町に到着し、先ず目に飛び込んできたのはやはり、すさまじい津波の被害の状況でした。

テレビの映像をみると、そこにはまさに言葉を失ってしまいました。地震に津波に火事と町は空爆を受けた戦場のようになっており、それが360度、ドラマ3Dになって目に飛びこんで来ます。一生忘れられない光景でした。そんな想いの中、ボランティア活動(以下ボラ活)の初日が始まりました。

実はボラ活には様々な法律や規制がかかっており、思っていたほど活動時間は長くなく、危険な仕事や重労働はほとんどありませんでした。初日は小学校の校庭に大きなテントを張る仕事をしました。WFPより贈られてきたテントらしく、大勢でわいわい言しながらテントを張ったのですが、30人くらいに対し、要領を失っているのは1人か2人で取り巻きの方が多く、やつてはばらしを繰り返し、ようやく組み上げました。ちなみにWFPってよくアフリカの難民が集団で生活している巨大なテントなどを贈る、つまりする国際的な組織のことです。(詳しくはよくわかりません) 2日目からは民家、田畠に流れ着いた瓦石礫の撤去、支援物資の仕分け作業、側溝などの汚泥撤去などでした。支援物資などは腐るほどあるにもかかわらず、次から次へとトラックで物資が届かれ、物資センターはまさにパニック状態になっていました。現地の職員では仕分けなどに手が回らず、正直困っている状態で、現地ではそれを支援物資災害などと言っています。自分も文房具の仕分けをしましたが、中には書けないボールペンやマジック使いかけのノートなどもあり、どう見ても「これはゴミだな」と思いました。実際、バザーなどにかけて、ほげない物は廃棄されるとのことです。ただでさえガレキの処分に困っている時に、支援物資を捨てるなんて…と思うととても切ない複雑な気分になりました。善意で送ってくれているとは思うのですが、送る側ももう少し考えた方が良いのでは…。ガレキの撤去では被災した方と接することができます。最初は警戒しており話をしてくれないので、次第に話かけてくれるようになりました。被災した風景もすいですが、被災者の方のお話をそれ以上に酷く、とても辛く悲しい気持ちになりました。でも最後には、奇麗になつた事に大変喜んでくれて「またいつか、必ず来てね。」と言って送り出してくれたおばあちゃんの笑顔は忘れるこことはできません。

現地では6日間ボラ活をしてきましたが、やはり一番強く感じたことは、完全な復興までのまことにまだ時間がかかるということ。そして怖いのはだんだん昔の意識が薄れてしまふことだと思います。自分達にできることは、少しでもいいから長く支援を続けていくことです。

富士山を抱えているこの地域もいつ助けてもらう立場にたるかわがりません。けして人間ではないはずです。

以上、岩手県山田町でのボランティア体験談でした。

《お詫び》

今回、富士宮の震災におかれまして、瓦の被害に遭い、当社で修復の依頼をお受けいたお客様には未だ対応しきれておらず、大変御迷惑をおかけしている事に対し、じっくりお詫び申上げます。状況を御理解のうえ今しばらくお待ちいただきたくお願い申上げます。

ちよっと 真面目に地球環境を考える編

今回ちよっと真面目にECOなお話をしてみようかと思います。

3月11日、東日本大震災が発生し、遠く離れた私達にしてみればあまり影響の無かった事で、「対岸の火事」のようですが、被災者の多くの方々は今も不自由な避難生活を送っています。震災発生後も私達はあまり困ることも無くいつも通りの日常を過ごし、不自由なく暮らしています。しかし、明日は我が身。東海、東南海地震も30年以内に起きるとか……。自然災害に加え、震災が発生する以前から人的災害(私達人間が引き起こした災害・地球温暖化)によって今まさに地球が危機にさらされています。地球温暖化による災害は数々。

- ①海面上昇による水没
- ②干ばつや豪雨による異常気象
- ③森林伐採による砂漠化
- ④水資源への影響
- ⑤生態系への影響
- ⑥異常気象による農作物や穀物生産の低下(食料不足)
- ⑦異常気象による猛暑下招き冷房などによるエネルギー不足
- ⑧熱帯性感染症発生の増加

地球はもうすでに悲鳴を挙げています。

未来ある子供達のためにも、豊かな自然を残す事が今の私達の使命であると思います。原発事故による人的災害で電気の供給が今まで通りにはいきません。節電の工夫など世間では色々と知恵が出されていますが、自分達でクリーンな電気を作れる事を考えるとまだ1番に思いつくのは毎日変わらず降り注いでくれている太陽の恵みを私達は上手に取り入れて生活できたら、地球にも優しくできるんです。

って言うのは既に皆さんもご存知ですね(^^;)……。

そこでまずは『我が家家の屋根に太陽光発電、パネル取付けました!!!』お天気の日はニッコリ。雨の日は……。

屋根に取付けたパネルの数にもありますが、我が家家の光熱費はかなり減りました。しかも地球に優しい♪ 加えて我が家家の屋根で勝手に作った電気を電力会社に買い取ってもらい、消費する電力よりも売電する量の方が大きい!!! 東日本大震災前から太陽光発電には興味がありました。ついに実現しました!!! ガスレンジもIHクッキングヒーターに取替え、灯油で沸かしていたお湯も深夜電気を利用するエコキュートに切り替え!!! ついに我が家もオール電化になりました!!! もう1つ付け足すとトイレも節水トイレに!!!

オール電化と聞くと「停電になった時に不便」と言う声を耳にします。確かに停電になると、全て電気で貯っているとすると不安がありますが、実は昼間なら停電中でも太陽光で発電している間は非常時コンセントから直接電気を使うことができるのです。

考え方、使い方によっては大変助かるアイテムになります。

今 私達に出来ること。未来ある子供達に大切な地球を守るために今出来ること。

我々は今まで文明の利器に頼りすぎ、便利で楽な生活をしてきました。個人的には人も物も古き良き昭和の時代が大好きです。暑い夏には窓を開け、窓にかけたヨンズ(走り)に風鈴の音を聞き、团扇や扇風機を回し、かき氷や西瓜やもぎたてのキュウリやトマトをほおばり、夕暮れには打ち水をし、縁台に腰掛け、蚊取り線香の香りと蚊を両手で「ハッキン!!」と捕まえる者。とにかくそんな風情のある昭和の時代が大好きで、思い出すといいが和むと言うか、逆にウキウキします。

そんな風情を今の子供達は感じられているのでしょうか?? ひょとして感性豊かではない現代の子供達?? ……もしかしたら現代の大人達も??? 便利で簡単に事を済ませられる今の状況では物の有難さも人との関わりが簡単なものになってしまっているように思います。

ECOを考えるとなつかか奥深いものです。明るい未来を信じて。

太陽光発電のご相談、いつでもお受けいたします。お気軽(どうぞ)